

* (昭和九年六月三十日)

(新聞・雑誌宛 林倭衛退会通知)

(24)

拝啓

向暑の砌 みぎり 益々御清適賀上げます。

扱、今春来本会会務委員の会務施行方針に対して、林倭衛君と他の委員との間に意見の相違を来しました為、林君が会員辞退の意を表示されてゐましたが、協議の結果本会ではそれを承認する事に致しました。

右御報告申し上げます。

昭和九年六月三十日

春陽会

(新聞 雑誌) 殿

* (昭和九年七月十八日)

(新聞・雑誌、会員・会友宛 人事問題「林倭衛退会」経過再報告)

(24)

拝啓

先般来の本会人事問題に対する世評に就いて、正鶴を欠いた点がありま
すから、改めて経過を御報告致します。

一、本会が会員、会友を推薦する場合は会務委員が協議し、会員にはかつ
て決定する事になつて居ります。

本年度は会員三名、会友九名を決定して展覽会招待日に発表する事
になつて居りましたが、発表直前に会務委員たる林倭衛君が突如、田
中万吉君を会友推挙に加へる事を提議し、然らざれば今日の発表に反
対し其のために自己の進退を懸けると強弁しました。

会務委員は会務を遂行せしむるため臨機の処置を採り、会友一名追
加する事になりました。

それに就いて、会員水谷、鳥海両君は個人の横議によつて会規が
紊る事を非難し、併せて会規擁護を称へ、かかる事の改めらるるに
非ざれば、脱会をも辞さずと申出ました。

四月二十八日に臨時委員会を開きて、右の会規問題に就いて協議
したる席上、林君は責任を感じて、両人の辞意を止め、自ら脱会を
明言しました。委員間には末節に多少の意見がありました。要す
るに根本に於ては、林君の辞意を承認せざるを得なかつたのであり
ます。

かくて会員会を開いて決定発表せんとしたところ、別府貫一郎君
は此件に就いては山本鼎氏に調停を一任せる故を以て、在鮮中の山

本氏の帰るまで決定を保留されたしと申込みました。

然るに六月二十八日に至り、山本氏よりは此件しかに関して委員会に採択を附託する旨電報があり、依つて此間既に会員の意嚮いこうも定まりゐたる故、六月三十日林君の辞意承認を發表しました。

以上が今回の概略であります。

ついで六月七日、在仏青山義雄君より来信あり、別府君の報道によつて林君の退会事情を知り、これに殉じて責任のある会員の位置を辞退したき旨申出あり、今後は一出品者として会との關係を保ちたいと申越されました。会としては同君の態度を尊重して此意を受諾する事にしました。

七月一日、橋本節哉、田中万吉両君が会友を辞退して来ました。両君の行き掛り上会はこれを受諾しました。

以上御報告申し上げます。

昭和九年七月十八日

春陽会

(新聞 雑誌)、会員・会友 殿